

ひと・まち広島未来づくりファンド **Hm²**

ふるふる

第21回(令和5年度)助成団体の活動成果について

	団体名	活動企画案内	助成金額
助成 団体 部 育 門 成	図書ボランティア わらっと	「ものがたり」を楽しもう！影絵とブラックライトシアターの上演会(2回開催)	2.7万円
	みささ日本語交流ひろば にじいろ	外国籍住民との「やさしい日本語」での「交流」を通したまちづくり	4.6万円
	計 2団体		7.3万円
まち づ く り 活 動 発 展 助 成 部 門	くらりか広島	地域におけるプログラミング学習の活性化	38.1万円
	公益財団法人ひろしま美術館	美術館で音楽を/ひろしま美術館ミュージアム・コンサート2023	16.3万円
	えほんとおそびのちいさな部屋	親子で楽しむ えほんとおそび	35.3万円
	宿題やつつけ隊	子どもの学習支援	16.7万円
	早稲田学区社会福祉協議会	ジュニア防災リーダー養成活動	26.3万円
	ブルーベリークラブ	わんわんパトロールで声を掛け合う町づくり	10.2万円
	ひだまり	発達障がい・知的障がい・グレーゾーンの子を持つ親の会/ひだまり	17.5万円
	望月の森	竹林と休耕田の再生からはじまる、資源と知恵の循環づくり	25.7万円
	明田フォトプロジェクト	写真資料から“知り”、写真展を“作る”ワークショップ	33.4万円
計 9団体		219.5万円	
	合計 11団体		226.8万円

団体名[図書ボランティア わらっと]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	「ものがたり」を楽しもう！影絵とブラックライトシアターの上演会(2回開催)
②実施期間	2023年7月23日～2023年8月20日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：図書ボランティア わらっと
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 7月23日(日)東区民文化センター(大広間)と8月20日(日)南区民文化センター(大広間)で、一般の方(主に児童が対象)へ向けて、影絵とブラックライトシアターの上演会を開催。13時半開場、上演時間14～15時。要申し込みで、先着65名様。夏休みに親子で参加していただけるように、7月と8月の日曜日に開催しました。 チラシを児童館や公民館などへ置いて頂き、Instagramやホームページ、ネットを利用して記事を掲載しました。 内容は、大型絵本の読み聞かせ、手遊び、ブラックライトシアター「アリババと40人のとうぞく」と影絵「ジャックと豆の木」の上演を実施。大型絵本と手遊びは、7月と8月では違う内容のものを実施しました。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 会場を予約するタイミングが遅かったので希望の会場や日にちでの実施が難しかったです。今後イベント実施を考える時には、早めに会場を予約したいと思います。ただ、和室(畳の部屋)での開催は良かったと思います。 チラシに一部間違いがあり、印刷後に気付いたので、何重にもチェック体制をとる必要がありました。 現在の悩みは、音響機器などの買い換えをするための資金が足りないことで、応募出来る条件の助成金申請先がなくて困っています。それから、新メンバーの受け入れをどうするか、ということです。お問い合わせを数件頂きましたが、平日の午後が活動のメイン時間なので、なかなか新しいメンバーを受け入れる、また、探すのが難しいです。 自分たちの活動や団体をもっと知ってもらうことが来場者を増やすことに繋がるので、これからも色々なイベントへ参加していきたいです。また、子どもたちへの読み聞かせはしていますが、大人への読み聞かせ、朗読や、明るい場所でも実施可能な紙人形劇などの制作にもチャレンジしていきたいです。

団体名[.....みささ日本語交流ひろば にじいろ.....]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	外国籍住民との「やさしい日本語」での「交流」を通したまちづくり
②実施期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日
③実施主体	みささ日本語交流ひろば にじいろ
④内 容	<p>「教室」と「交流」両方の観点で、外国籍住民と地域住民が相互理解を図り、ともにまちづくりを進めていく「多文化共生」が、我々の目的である。2023年度は、毎月第1・3日曜日の交流活動に加え、第2・4水曜日の日本語学習会を試行的に開催し、活動を拡充させた。今回いただいた助成金は、参加外国籍住民の多様な日本語レベルとニーズに対応するための、各種教材購入費用として活用させていただいた。</p> <p>その結果、2023年度は毎月第1・3日曜日の交流活動を計27回、第2・4水曜日の日本語学習会を計22回開催し、外国籍住民計160名、地域住民計320名の合計480名（いずれものべ人数）の参加者数となり、昨年度を大きく上回る結果となった。</p> <p>またこれら定期的な活動以外には、横川地区で開催された4/23（日）「横川ふしぎ市」や8/11（金）「がわフェス」、11/12（日）「みささ公民館まつり」等での出店や展示、また8/26（土）広島市西区大芝地区花火大会への参加等、地域行事にも積極的に参加し、外国籍住民との協働作業や活動を通して、一体感を醸成するよう努めた。</p>
⑤今後の課題・展望	<p>日曜日を中心とした会には、地域の中国人、インドネシア人、ベトナム人を中心に多彩な外国人が参加して異文化交流の場となった。毎回新しい日本人ボランティアの参加もあり、日本人とのおしゃべりや日本語学習を楽しみにして毎回参加する外国人も定着した。また、地域の行事にも積極的に参加する外国人が増えて、多文化共生を目指す地域活動が広がったことは大きな成果である。</p> <p>一方で、水曜日の日本語学習会は日本語能力検定試験の前まではインドネシア人を中心に毎回活気があったが、試験終了後参加者が減り継続が難しい状況になった。開催日時が平日の18時からというのは、働いている外国人にとっては参加が難しい点があるように思われる。今後、開催日時を検討して、継続的に日本語学習ができる条件を考えることが課題である。また、会の周知のためのSNSなどの発信を今まで以上に強化することが課題である。</p>

第21回 まちづくり活動発展助成部門

団体名[..... くらりか広島]

注意: 助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	「地域におけるプログラミング学習の活性化」
②実施期間	2023年 6月 11日 ~ 2024年 3月 10日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催：くらりか広島 連携：蔵前工業会（東京工業大学同窓会）</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>1) 単発開催（プログラミング入門教室）：小学生計 54 名、保護者計 20 名 ・7/25（火）2 クラス、南区向洋新町（向洋新町会館）、児童 31 名 保護者 15 名 ・8/18（金）1 クラス、南区向洋新町（向洋新町会館）、児童 13 名 保護者 10 名 ・8/20（日）1 クラス、安芸区船越（船越公民館）、児童 7 名 保護者 3 名 ・9/24（日）1 クラス、安佐南区山本新町（春日野集会所）、児童 3 名 保護者 2 名</p> <p>2) 定期開催（プログラミングベーシックコース）：延べ 小学生 267 名、保護者 182 名</p> <p>①南区向洋新町（向洋新町会館）2 クラス 開催日：8/18, 8/26, 9/10, 10/22, 11/19, 12/10, 1/28, 2/25 全 8 回 16 クラス 延べ参加者数：児童 115 名 保護者 61 名</p> <p>②安芸区船越（船越公民館）1 クラス 開催日：6/11, 8/20, 9/10, 10/29, 11/19, 12/10, 1/28 全 7 回 8 クラス 延べ参加者数：児童 52 名 保護者 45 名</p> <p>③安佐南区山本新町（春日野集会所）1 クラス 開催日：6/25, 7/16, 9/24, 10/29, 11/26, 12/17, 1/21, 2/25 全 8 回 8 クラス 延べ参加者数：児童 64 名 保護者 52 名</p> <p>④東区東蟹屋町（二葉公民館）1 クラス 開催日：1/14, 2/4, 3/3 全 3 回 3 クラス 延べ参加者数：児童 36 名 保護者 24 名</p> <p>3) プログラミング発表会：小学生 22 名、保護者 41 名 開催日：2024 年 3 月 10 日 活動場所：東区民文化センター 参加者数：発表児童 15 名 見学児童 7 名 保護者 41 名</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>1) 各地域の集会所や公民館で定期的・継続的に開催することで、プログラミング学習のコミュニティ作りのきっかけとなりつつある。</p> <p>2) 児童だけでなく同伴している保護者もプログラミングについての知識を得ることができ、市民全体の情報リテラシーの向上につながっている。</p> <p>以下は発表会でのアンケートの保護者のコメント： 「普段の教室、この度の発表会、たくさんの準備やご配慮、大変だったことと思います。いつも本当にありがとうございます。本当に感謝しております。来年度も親子で楽しみにしております。よろしくお願いいたします。」</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>【成功した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規児童を対象にした単発開催の入門教室を開催することでプログラミングへの関心が高まり、その多くが定期開催教室に参加して参加者数の増加につながっている。 ・定期開催教室の各回で内容を完結するようにしたことや、各回で前回の復習をやるようにしたこと欠席した児童が次回に参加しやすいようにした。 <p>【失敗した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規児童を対象にした入門教室の募集を Instagram などの SNS を活用したいと思っているが、SNS の配信方法がよく分からず、うまく活用できていない。
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>1) プログラミング学習を継続していくには児童が楽しめる題材を常に提供していく必要がある。それを実現するためにカメラ機能や音声機能を使った AI (人工知能) を取り入れたプログラミングを行う AI コースの教室や実際に走行するロボットのプログラミングを行うロボットコースの教室を開催することで参加者が楽しんでプログラミング学習を継続できると共に、より高度なプログラミング技術を習得できるようにしていきたい。</p> <p>2) 活動地域を広げていくにつれて運営側の負担が大きくなるが、さらに地域を拡大して活動を継続していくためには、各地域の人たちが中心となった運営団体を形成し、プログラミング教室を主体的に運営していけるようにする必要がある。この運営団体を形成するための活動に取り組んでいきたい。</p>

団体名 [公益財団法人 ひろしま美術館]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	美術館で音楽を/ひろしま美術館 ミュージアム・コンサート 2023
②実施期間	2023年4月1日 ～ 2024年3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催：(公財) ひろしま美術館 ・協賛：(株)リーガロイヤルホテル広島、広島信用金庫、広島テレビ放送(株) ひろぎん証券(株)、(株)中国放送、損害保険ジャパン(株)、(株)テレビ新広島 (株)広島ホームテレビ、広島エフエム放送(株)、(株)中国新聞社、セコム(株) (株)あじかん、ハーコブ(株)
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ミュージアム・コンサートの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・当館ホールにて計12回開催(6/10、6/11、7/8、8/12、9/9、9/10、10/14 11/11、12/9、1/13、2/10、3/9) ・美術館会員、常連ファン、演奏者知人を中心に友達連れでの参加者が多い また、当日来館した際に偶然知って参加した人も一定数あり ○低コストによる市民への広報・PR活動 <ul style="list-style-type: none"> ・新たに市内の公民館・図書館へ専用チラシを配布(配布先：101館) ・当館ホームページ、SNSでのPR強化 ・フリーペーパーや月刊誌への記事掲載依頼 ○参加者の実態把握に向けたアンケート実施 <ul style="list-style-type: none"> ・7月より毎回実施(計10回) ・アンケート結果の集約・分析により実態把握の上、今後の運営に活用・検討

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術館でコンサートを行う意義を再考する中、美術館の特質（美術と音楽の親和性、名画に囲まれて行うコンサートの雰囲気、ドーム型のホールでの音響効果、演奏者との距離感・息遣い等）を活かした運営に注力することで、広島市が掲げる「花と緑と音楽に溢れるまちづくり」に参画するとともに、“ここでしか味わえない体験”を創出するよう創意工夫した ○コンサートは毎回満席と盛況であった。また、アンケート結果を見ると毎回好評を得ており、美術と音楽の両面で市民の憩い・やすらぎの場としても一定の認知が図られつつある ○新たに公民館・図書館にも専用チラシを配布したが、それを見て参加したと回答した人は些少であった。一方、友達からの紹介や美術館のパンフ等を見て参加した人は依然多く、口コミや紙媒体の有効率は未だ高い状況である状況であった ○参加者層は、市内在住かつ高齢者のリピーターが太宗を占めている。しかしながら、偶然来館され参加された方からの反応も良かったことから、継続的な広報・PR活動が重要であると再認識できた
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術館でコンサート行う意義、美術館の特性を改めて考え直す良い機会となった ○持続可能な運営に向け、低コストによる広報・PR活動の選択肢が広がった ○アンケート実施によりコンサート参加者の実態を概ね把握、今後の運営に役立つデータ収集が図れた
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最も多い高齢者層に配慮しつつ、今後を展望した新たなファン、一世代若いファン層の掘り起こし <ul style="list-style-type: none"> →アンケート等によるニーズ把握に努め、ニーズを反映したコンサート運営を実施 →SNSによるPR強化、無料や廉価な広告媒体の有効活用による周知の拡大 →クラシックに加え、ジャズやポップスなど幅広いジャンルへ拡大 →「聴いたことがある曲」を数曲組み込み、「また来たい、また聴きたい」と思わせる構成を演奏者とともに模索 ○ピアノ搬入費の高騰に対する経費の削減・工夫 <ul style="list-style-type: none"> →ピアノありコンサートの要望は多いため、回数は極力維持しつつ集約化（同月に土・日と連続開催）等により費用削減 →ピアノ以外の楽器の楽しさも伝えていくため、多楽器の演奏者候補を拡充していく中、質を落とさずバランスを考慮した運営を模索

団体名 [..... えほんとおそびのちいさな部屋]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	親子で楽しむ えほんとおそび
②実施期間	2023年 4月 14日 ～ 2024年 3月 22日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) えほんとおそびのちいさな部屋
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p><えほんとおそび> 実施方法:オフライン(各会場月1回) 対象者:7か月～5歳の未就園及び就園の親子 活動会場:Kids Garden Tree(広島市佐伯区五日市) 10回 延べ39組 マリモコネクトひろば(広島市西区庚午北) 2回 延べ4組 みんなのあいプラザ(廿日市市) 12回 延べ47組 活動内容:玩具遊び(木製玩具を中心に)・ふれあい遊び・集団遊び 絵本の読み聞かせ(ぐりとぐら・かささしてあげるね・きんぎょがにげた・おおきなかぶ・にこにこかぼちゃ・さんかくサンタ) 遊び(小麦粉粘土DEカステラづくり・つばめさんとあそぼう・ぐりとぐらのおさんぽ遊び・コロコロボーリング遊び・水玉あまがさづくり・きんぎょをさがせ・金魚すくいごっこ・かんでんあそび・ふうふうカステラつくっちゃおう・かぼちゃのフォトフレーム飾りづくり・かぶのたねまき・自然物たっぶりのさんかくリースづくり・おはながみの感覚遊びとゆきだまさんづくり・かぶの収穫・おおきなかぶのペープサートづくり) 子育て相談</p> <p><えほんとりズム> 実施方法:オフライン 対象者:7か月～5歳の未就園及び就園の親子 活動会場:まるくる大野(廿日市市大野) 6回 延べ12組 活動内容:リズム遊び・ふれあい遊び・集団遊び・えほんの読み聞かせ</p> <p><えほんとおもちゃ> 実施方法:オフライン 対象者:2歳の未就園の親子 活動会場:ギャラリー棟(広島市西区大宮) 8回 延べ15組 活動内容:玩具遊び・ふれあい遊び・公園での戸外遊び・制作活動・お弁当 えほんの読み聞かせ、及び子育て相談</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) <成果・効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・えほんとあそびは、昨年度から継続して参加して下さる親子が半数以上おられ、活動の目的や保護者の繋がりづくり等を理解し、新規参加の親子が不安なく参加できる雰囲気を作って下さった。活動を受動的でなく主体的に楽しむ保護者の姿が多く見られるようになったことは大きな成果であった。 ・10月～3月までの教室は、蕪の栽培に取り組んだ。家でも蕪の栽培に取り組んだり、蕪を買って食べたりと、家庭でも自然への関心や食育に繋げることが出来たことも大きな成果である。 ・えほんとおもちゃは、会場近くの公園に遊びに行き、体を動かして遊んだり、地域の友だちと交流したりする機会を作ることができた。来年度は交流で知り合った親子が参加される予定。地域と繋がりを持つ良い機会になった。 <p><対象者等の反響(保護者からの感想)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の話や相談したことを思い出すと、全てが参加したみんなのことを考えて作られた教室だなと改めて思った。色々なことを教わり、いろんな話を聞いてもらい親子を成長させてもらえて感謝している。 ・初参加の時から安心感があり、口下手な私でも心を開いてしまうほど、アットホームな雰囲気があった。我が子にとって唯一の集団の場であり、前日から子どもは楽しみにしていた。これからも、いろんな保護者や子ども達の心の拠り所になると思う。本当に子どものことをよく見て下さり、感謝している。 ・2年も通ったかと思うほど、あっという間だった。毎週通う教室よりも月1回のこの教室の方がすぐに慣れ、自分を出せていたと思う。とても丁寧で、豊富な知識や将来を見据えた声掛けやフォローは、親子にとって本当にありがたい時間だった。 ・2年前に友人に紹介してもらった。集団の場に参加するのが初めてでドキドキしたが、勇気を出して飛び込んで本当に良かった。この教室に来たら、子どもも母親も受け止めてもらえる、変わらず継続的に通える場所が出来たことが、どれだけ安心できて、心の支えになったか分からないほど。幼稚園選びや子育ての悩みにも親身に相談にのってもらい、本当に有難かった。
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p><目的の達成度> 目的や趣旨の達成は80% 実施スケジュールの達成は50%</p> <p><成功点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から継続して参加して下さる親子が半数以上おられ、安心して過ごせる居場所としての役割を果たすことが出来た。 ・保護者同士が仲良く、子どもたちも自分の親以外の大人と、遊びを楽しめるようになった。我が子だけでなく、子どもたち皆の成長を喜べる保護者集団になってくれたことは大きな成果である。 ・絵本を楽しんで見れる子どもが増えた。また椅子に座って、話をしている人に注目できるようにもなり、就園前に習得してほしい力をつけることができた。 <p><工夫点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちを意識したり一緒に活動を楽しんだり、共感できるプログラム作りを丁寧に行った。 ・保護者に活動の目的を伝えることで、保護者自身も意識を持って活動に向き合ったり、子どもに関わったりする姿がみられた。 ・蕪の栽培を通して、自然や食べ物への興味や関心を高めた。 <p><失敗点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予定していたスケジュールが、スタッフの生活環境が大きく変化(仕事や介護)したことで約半分の実施にとどまってしまった。活動の継続に不安を感じたが、運営委員からの「無理のない範囲で活動を継続することが大切」との助言を頂いていたことが安心感を繋がり、応援スタッフの助けを借りながら最後まで活動することができた。欲張らずにスケジュール設定しなければならなかったと反省した。
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく自信を持って子育てに向き合う支えとして、えほんとあそびの存在意義があることを保護者からの感想で実感できた。また、私たちも親子から元気や意欲をもらうことができ、相互効果があることも大きいと感じた。 ・継続して支援することが重要であり、今後も子育て collaborator として、子どもと保護者に寄り添った活動をしていきたい。

団体名[.....宿題やっつけ隊]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	子どもの学習支援
②実施期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催：宿題やっつけ隊 連携：五日市公民館、五日市中央公民館、皆賀公民館、佐伯区福祉センター 協力：五日市学区社協、五日市中央学区社協</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>【実施方法】</p> <p>○教室学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館等の公共施設を借りて無料学習支援を行う ・講師は全てボランティアで地域住民から構成 ・宿題だけでなく、自主勉強も取り組ませる。教材はこちらで用意 <p>○自宅学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自宅で学習するための通信教材を提供する ・当会オリジナル教材で内容は計算プリント。1～3年生用を用意 <p>【工夫】</p> <p>○教室学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師は褒めて伸ばす指導を意識。子どもたちの多くは勉強が苦手な自信を持たせる為 ・子どもの学習意欲向上の為、頑張りに応じてプレゼント贈呈（キャラクター文具） <p>○自宅学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回面談を行い、子どもの進捗や理解度にあわせて計算プリントを提供することで無理なく学習を進めさせる ・家庭の影響が大きい為、保護者と協力する体制を築いて定着を図る <p>【活動日時と場所】</p> <p>○教室学習支援（子ども人数80人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日 15時～18時 皆賀公民館 ・金曜日 15時～18時 五日市中央公民館 ・木曜日 14時～16時 五日市公民館 ・土曜日 10時～11時 佐伯区福祉センター <p>○自宅学習支援（子ども人数40人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日、時間の指定はなし。場所は各家庭で学習する

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>当会の取り組みを知った地元の大学生・高校生 12 名が夏休みと春休みの間、ボランティアとして子どもたちの為に支援してくれた。今年度も継続してくれる学生が多く、今後益々活動の発展が期待できる。</p> <p>また、年度末に子どもと保護者向けにアンケート調査を実施</p> <p>2023 年度の結果は以下の通り ※集計数 120</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会の満足度 ・子どもが勉強を好きになった 63% ・自宅学習の時間が増えた 74% ・テストの点数が上がった 58% ・学校の授業が分かった 66%
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>「自宅学習支援」は開始して 1 年経ったが、多くの子どもに効果が現れたと喜びの声を沢山いただいた。半数以上の子どもが計算力の向上が見られ、学年を跨いで先行学習に取り組む子どももいる。只、全ての子どもが予定通りに進められることではなく、保護者との連携が足りずに途中退会してしまう子どもも見られた。</p> <p>また、会員数の目標は 150 名だったが、慣れない取組みで対応に追われ 120 名に留まった。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>○課題</p> <p>自宅学習支援では保護者との連携が子どもの学習に大きく影響していると分かった為、今後はより密に対応していく。ボランティアの力を活用して任せられる仕事はきちんと割り振っていきたい。</p> <p>○展望</p> <p>これまでは無料で学習支援をしてきたが、無料故に教室での勉強を疎かにしたり、定期的に休む子どもが年々増加して悩んでいた。ボランティアメンバーやボランティアコーディネーターの方に相談して、今年度より教材費として月 500 円を保護者へ徴収することに決めた。経済的理由などで徴収が難しい家庭は引き続き無料で対応していく。保護者も快く承諾して下さり、増額した予算で子どもや地域へ還元していきたい。</p>

団体名[早稲田学区社会福祉協議会]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	ジュニア防災リーダー養成活動
②実施期間	令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>(主催) 早稲田学区社会福祉協議会</p> <p>(連携) 早稲田学区自主防災連絡協議会、早稲田学区青少年健全育成連絡協議会 広島市立早稲田中学校、広島市立早稲田小学校</p>
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>R5. 4. 1 リーダーミーティング (早稲田集会所) 中学生リーダーとの活動ミーティングを開催</p> <p>R5. 7. 30 防災ボードゲームによる研修会 (早稲田公民館) 地域オリジナルボードゲームを使用したリーダーの勉強会を実施</p> <p>R5. 8. 20 防災ハイキング (牛田山周辺) ハイキングを通じて平成30年7月豪雨の被災地の見学などを実施</p> <p>R5. 9. 2 防災クッキング (早稲田公民館) 備蓄品でできる調理方法を実習形式で体験</p> <p>R5. 9. 24~10. 22 かまどベンチ作り (牛田東第3公園) 災害時にかまどとして使用できるベンチを手作りで製作</p> <p>R5. 11. 3 リーダーミーティング (早稲田集会所) 活動の中間取りまとめと今後の活動についてミーティング</p> <p>R5. 11. 19 かまどベンチお披露目式 (牛田東第3公園) かまどベンチを地域住民にお披露目し、炊き出し訓練を実施</p> <p>R5. 12. 10 ぼうさい運動会 (早稲田公民館) 運動しながら防災を学べる体験型学習会を開催</p> <p>R6. 1. 28 ふゆまつり・WBQ (わせだ BOUSA! クエスト) の開催 リーダーが企画・準備・運営する防災イベントを地域行事の中で実施</p> <p>R6. 2. 10 普通救命講習への参加 地域で開催する普通救命講習にリーダーが参加</p> <p>R6. 2. 17 友楽タイム防災教室 (早稲田公民館) ぼうさい謎解きなどの防災教室に小学生リーダーが参加</p> <p>R6. 3. 10 ジュニア防士テストの実施 中学生リーダーが活動を振り返るテストを実施</p> <p>R6. 3. 23 ワークショップ「BQSAIカフェ」(SATONOWA コミュニティハウス) 地域の防災まちづくりワークショップに小学生リーダーが参加</p> <p>R6. 3. 31 リーダーミーティング (早稲田集会所) 次年度に活動する中学生リーダーの活動ミーティングを開催</p> <p>R6. 4. 3 ジュニア防災士授与式 (早稲田集会所)</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア防災リーダー(中学生、小学生)は、様々な活動に参加することで防災への関心を高めながら、知識と意識を向上させることができた。 ・ジュニア防災リーダーは大人と一緒に活動する中で、地域のまちづくりの仕組みを理解しはじめ、活動を通じて成果や手応えを得られることで、能動的に活動に係わるようになってきており、今後も地域のまちづくりに持続的に参加してくれることが期待できる。 ・ジュニア防災リーダーの活動を通じてリーダーの保護者を始め、各活動に参加する団体や大人などの関係者も防災まちづくり活動への関心が高まり、新たなネットワーク作りができてきている。
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア防災リーダーとその関係者の防災意識は高まり、さらに活動内での交流により築かれたネットワークは、今後の防災まちづくりに活かされるものであり、当初の目標は一定程度達成できた。 ・特に中学生のリーダーは活動を重ねる度に積極性が増し、自らが主体的に活動に参加し意見を出しながら、時にはリーダーが主体となって活動を準備、運営できるようになった点は成功した点といえる。 ・リーダー以外の関係者は、単発の活動への参加者が多く、築かれたネットワークを強めるところまでいかなかったため、反省点としてとらえている。 ・リーダーには、防災がテーマでありながら、まちづくりとのつながりについても説明しながら活動することで、地域活動への関心を高め、将来的にも共に活動できるような雰囲気作りを工夫した。
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア防災リーダーの活動は基本的に単年度で終了するため、終了後に地域とのつながりをどのように継続していくかが課題になる。このため、今後も早稲田学区社会福祉協議会が実施する活動について周知し、希望があれば活動に参加してもらう。 ・リーダーは、新しくリーダーになる子どもたちの先輩として活動に参加してもらうことで、より主体的に地域のまちづくり活動に係わってもらう。 ・今年度は、時期の調整などができず、NPO法人や消防署・消防団など地域外の関係機関、団体と連携した活動があまりできなかったが、来年度以降はこれらの団体等と連携した活動を加えて、よりネットワークを拡げてまちづくり活動ができるように努める。

団体名 [フル-ベリーくらぶ]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	わんわんパトロールで声を掛け合う所づくり
②実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催 フル-ベリーくらぶ 後援 庚午地区社会福祉協議会</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>会員はわんわんとお散歩をする時にわんわんがいた、会員は散歩の途中に子どおと見かけたら見守ってもらおうと見守り活動です。</p> <p>年に3回会員同士のおいあ場としてイベントを行います。</p> <p>① 7月 ペット災害危機管理の日に「パニックに備えるしつけポイント」と題して講演会を開催。</p> <p>② 10月 見守る会員と見守られる子ども達のおいあイベント。 「ハロウィン祭り」を開催。中学生ボランティア20名、単身介護オアシスの方10名、フル-ベリーくらぶスタッフ10名、来場者220名。 わんわんも子ども達も仮装してゲームやお菓子でハロウィンを楽しみました。</p> <p>③ 3月 「通学路をかんたんに歩いてみよう」を開催。 あいにくの雨で参加者は25名でしたが、単公園から2グループに分かれて、それぞれ通学路を歩きました。わんわんの一時避難場所に対するようなスペースを探したから、事前 浸水時緊急避難施設なども確認したから手前歩を奨励 小学校では備蓄倉庫を見学し、ピンナップの備蓄しているか何と自分たちで備蓄してあるか、いつか等、西区防災の方にお話を聞き、最後にアルファ米を配布しました。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりには、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>会員さんは20代~40代の人がいらしていますが、ハロウィン祭りでは、おんちゃん子とも運と願、至さん同士がふれあう世代交流の場となりました。</p> <p>高齢の会員さんからは、曾孫子とも運とふれあうことがいいと、孫と話しているようにうれしかったとの声がありました。</p> <p>若い世代の会員さんは、あはつ程度で話をするには一切の障りなくおんちゃんのことについて話せることとお互いの話ができてよかったとの声もありました。</p> <p>世代間によって住んでいる地域で顔見知りが増えていく効果がありました。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>小学校より発信した不審者情報に会員さんのSNSで発信し迅速に町の情報共有ができて地域の連絡を築く一歩となりました。</p> <p>イベントを通じて知りあいたち同士が公園を歩いている時に話している光景を随所で見れて、地域住民同士の顔見知りが増えたと感じました。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>フルバリークラブは若い子育て世代のメンバーのため、イベント当日の土曜か日曜にするのが難しいこともあり、来月のメンバーで進行することがめづりました。今後の課題としてメンバーを増やし役員もできる時にできるメンバーでイベント運営ができるようにしていきたい。</p> <p>3月のイベントでは町歩きを実施したい。</p> <p>その時に安佐南区のおんちゃんハロウィンと交流する企画をしてみたいです。雨のため中止となりましたので令和6年度に実施しようと思っています。</p>

団体名 [..... ひだまり]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	発達障がい・知的障がい・グレーゾーンの子を持つ親の会 / ひだまり
②実施期間	2023年 6月 1日 ~ 2024年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 発達障害の子を持つ保護者たち 主催者ひだまり
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ■活動会場 ：広島市佐伯区・皆賀公民館 和室 定員 15名 終了後 LINE オープンチャット (匿名・承認制) にてメンバー46名に情報共有 ■対象者 ：発達障害や知的障害 (神経発達症)・グレーゾーンの子を育てる保護者 ■内容 ：月1回集まりを持ち、地域の支援情報を共有する 2023年 10月16日 (月) ひだまり情報交換会 視覚支援サポート (8名参加) 11月29日 (水) 言語聴覚士・河村先生との座談会 (11名参加) 2024年 2月19日 (月) 広島市の福祉制度まとめよう回 (14名参加) 3月15日 (金) 先輩お母さんに聞く！高校受験のお話 (15名参加) ■実施方法 1. 集まりやLINE オープンチャット投票機能でメンバーの困りごとを聞いておく 2. 中心メンバーで講師・企画内容を決め、講師に依頼・日程調整 3. 集まりの告知 ひだまり公式LINE アカウント (登録者82名) と 新しく作ったホームページ・インスタグラムにて事前に告知を行う Google フォームで参加受付 (人数・駐車場の確認など) 4. 実施 プロジェクターを活用し、講師や参加者の発言を板書、インターネット検索で詳しく情報収集しながら地域の支援情報の内容をタブレットのノートアプリにまとめていく 他に困りごとがあれば次回のテーマにつなげる 5. まとまった支援情報の共有 平日午前中に開催のため仕事で欠席の方が多い まとまった情報はLINE オープンチャット (匿名・承認制) にてノートの画像を共有

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>■少子化のなか発達障害の子どもは増え続けている。広島市も例外ではなく、小学校の支援学級の数、民間の療育施設の数も年々増え続け、そのニーズに合わせ福祉サービスも多様化しているが、それらを多忙な保護者は把握しきれていない。例えば、小学生が通える療育施設は佐伯区で約40か所、西区で約50か所以上あり、子どもを通わせるまでに多くの情報収集と手続きと時間が必要で、毎日の仕事・家事・特性の強い子の育児にこれらの情報収集が加わることで、保護者たちは疲労困憊している。</p> <p>■そこで、ひだまりでは療育施設の特徴や口コミ・広島市の福祉制度などをわかりやすく図表にまとめ発信している。「障害」という診断がでたばかりの不安な保護者にとって、近所の先輩保護者の体験談・地域のまとまった支援情報はとても貴重である。その貴重な情報をスマートフォン1つあればいつでも気軽に得られることで、保護者の不安解消につながり、広島市に住む特性のある子どものより良い育ちに繋がっている。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>■目的達成について 保護者の情報共有・ピアサポートの場として活動ができた</p> <p>■成功した点 「Instagramでひだまりを知った・興味を持った」との声が多く、アカウントを作ってよかった 「分からない」という声が多かった「広島市の福祉制度」を佐伯区基幹センターの方と分かりやすくまとめることができた</p> <p>■失敗した点 視覚支援グッズ作りは時間がかかるので、個別により長い時間を確保すべきだった</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>■今後のひだまりの活動について 広島市には発達障害の保護者を支援する会がいくつかあるが</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に悩んできた保護者が立ち上げた・利益を目的としない団体であること 2. 支援情報をわかりやすくまとめスマートフォン(LINE)で共有していること 3. 参加費が無料であること <p>がひだまりの長所であると考える。</p> <p>一方で、運営メンバーが毎日仕事・家事をしながら小学生の子どもたちを育てる保護者であり、ひだまりの活動になかなか時間を取れないことが短所である。</p> <p>■活動の回数を今より増やすことは難しいが、月1回2時間の集まりを漫然とおしゃべりするだけに使うのではなく、「支援情報の共有」という目的を忘れず、私たちがこれまでこどものために寝る間も惜しんで調べた経験したこと、集団のなかでトラブルが多い発達に特性のある子どもを育てる保護者不安を解消できるような情報を、視覚的にわかりやすく残すこと、最新の情報を共有・発信していく活動を自分たちの為にも、これから診断を受け悩む保護者のためにも続けていきたい。</p> <p>特に、「2. スマートフォンでの情報共有」に関してはより発展し、今回の助成事業で購入させていただいたタブレットを活用し、Instagram・ホームページなどより多くの方に情報を共有できるように活動の幅をインターネット上で広げていきたい。</p>

団体名[望月の森]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ／名称	竹林と休耕田の再生からはじまる、資源と知恵の循環づくり
②実施期間	2023年4月1日～2024年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 望月の森
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) [4月～6月：田んぼづくり] 竹炭と落ち葉を使って、休耕田の再生を開始 長年使われていなかった田を再生するために、地域の竹を伐採して作成した竹炭と、地域の水路を掃除した際に出た落ち葉をまきました。 あわせて、シカが多い地域のため、田の周りに防護柵を設置。防護柵の高さを出すための支柱などにも、竹林整備で出た竹を使用しました。 種もみからの苗づくり 地域でもち米を長年作っている方から、黒米の種もみをわけていただけることになりました。地域の方の育苗機などをお借りした種もみは順調に発芽、立派な苗ができました。 田植え体験を実施 長年放置された田のため、耕す過程でゴミや空き缶・空き瓶がたくさん出てきて、その都度ゴミ拾いをしました。安全面を考え、子どもを裸足で田んぼに入れることは危険と判断し、大人が長靴を履いて田植えを行いました。マコモも試験的に植えてみました。田植えが初めての方にも体験いただくことができました。 台風で稲が倒れる 稲は無農薬で育てていたため、草取りや水路の水の調整、あぜの草刈りなどを定期的に行っていました。防護柵を高くしたことで、懸念していた獣害にもあわず育っていたのですが、台風で倒れてしまい、稲刈りイベントは断念しました。

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>米づくりの知識・技術を習得</p> <p>今回、メンバー全員が米づくり初心者だったのですが、地域の方の協力で、米づくりのノウハウを習得することができました。あわせて、長年放置されていた田を整備することができました。</p> <p>竹炭や竹の利用効果を検証</p> <p>地元の竹林整備でた竹で炭をつくり、田んぼにまいたことで、稲の生育は非常によく、無農薬で立派に育っていました。あわせて、防護柵に竹を利用して柵の高さを出すことで、お金をかけずに獣害対策ができることが立証できました。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>米づくりが予定通り進まず</p> <p>台風により稲が倒れてしまい、今年度の米づくりは途中で断念することになりました。</p> <p>竹林整備と農業の循環</p> <p>米づくり自体は、思うように進まなかったのですが、竹林整備と農業の循環をつくるモデルづくりとしては、一歩前進しました</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>竹林整備と農業の循環を進める</p> <p>昨年度に続いて、2023年度にも竹林整備を継続して行いました。整備で大量に竹を切ったため、まずは切った竹を使って竹炭を作り、田や畑にまいて活用していけたらと思っています。あわせて、整備前は枯竹しかなかったエリアに、2023年夏には新しい竹が生えてきました。タケノコは2年目の竹から生えてくるため、2023年春の時点では、タケノコはわずかな量しかとれなかったのですが、整備2年目となる2024年度以降は収穫量が増える可能性が高いと考えています。今後も整備を続けて、タケノコをとったり、メンマを作ったりできる竹林に育てて、その恵みを地域全体で活かしていけたらと考えています。</p> <p>米づくりの技術の継承</p> <p>米づくりはうまく進まなかったのですが、せっかく学んだ知識や技術を受け継いで、今後につないでいけたらと思っています。</p>

団体名〔 明田フォトプロジェクト 〕

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	写真資料から“知り”、写真展を“作る”ワークショップ
②実施期間	2023年4月1日～2024年3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>明田フォトプロジェクト</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>▼「知る」と「作る」全2回のワークショップと、その成果となる写真展を、以下の3会場にて開催した。</p> <p>【1】井口会場(協力:井口公民館/アルパーク無印良品/井口・鈴が峰 魅力づくり委員会) ワークショップ①1月21日(日) ②2月4日(日) アルパーク無印良品2階 Open MUJI 写真展「水辺の戦後史 明田弘司が写した井口～草津～庚午～己斐」 2月5日(月)～2月18日(日) 会場:アルパーク無印良品2階 Open MUJI</p> <p>【2】竹屋会場(協力:竹屋公民館/フジグラン広島) ワークショップ①2月10日(土) ②2月24日(土) 竹屋公民館1階 研修室 写真展「百メートル道路」 2月25日(日)～3月10日(日) 会場:フジグラン広島2階</p> <p>【3】楽々園会場(協力:楽々園公民館/楽々園観光案内所) ワークショップ①3月17日(日) ②3月31日(日) 楽々園公民館1階 第1研修室 写真展「園が園を呼ぶ。～五つの園のものがたり～」 (4月1日(月)～4月28日(日) 会場:楽々園公民館2階ロビー・楽々園観光案内所)</p> <p>▼参加者は各回10名程度で、うち数名は公民館などに協力いただき、写真に写る当時をご存じの高齢者に参加していただいた。</p> <p>▼①「知る」では、会場周辺の作品をプロジェクターに映してご覧いただき、大きく印刷した古地図などの資料と照らし合わせながら、当時の思い出話を聴いたり、自分たちの暮らすまちの今と比較したりして、地域への理解を深めると同時に、写真展で展示したい作品を選んでもらった。</p> <p>▼①「知る」でお聴かせいただいた昔のお話や、参加者の感想をもとに、写真展のテーマや展示作品を最終決定し、キャプションなどにも取り入れて、企画展を制作した。</p> <p>▼②「作る」では、印刷された写真をハレパネに貼って木製額のサイズにカットする作業や、キャプション・展示資料などの準備、会場設営をみんなで行った。</p> <p>▼展示会場には、感想など自由に書き込めるノートを置いたり、テーマに沿ったアンケートを実施するなど、興味深い感想や反響をたくさんいただくことができました。</p> <p>▽各会場とも、周辺の公民館などから巡回展のご希望をいただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井口会場→西区役所1階ロビー、庚午まちづくりグループ活動拠点(5月以降予定) ・竹屋会場→竹屋公民館開館40周年記念企画(5月予定) ・楽々園会場→吉見園公民館、坪井公民館(9月以降予定)

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>▼申請書記載の実施効果(世代間交流・写真資料活用方法周知・データベース更新)を達成</p> <p>▼①「知る」では、高齢の参加者が写真を見ると当時の記憶がどんどん甦ってくるようで、子どものときの出来事や、どこに何があったかなど、とても詳しく語られた。それを聞いて、当時を知らない世代はもちろんのこと、高齢の方と近い年代の方からも「同じ広島に暮らしていても地域が違うとこんなに知らないことがあるのか」と驚きの声が聞かれた。</p> <p>▼②「作る」では、実際に体を動かして展示の準備をすることで、達成感を感じてもらえた。「自分たちで作った写真展だ」と、周りの人にも喜んで紹介して下さったようだ。</p> <p>▼参加者さんから「あんな適当にしゃべったことが、こんな風に展示に活かされるんか」と感心していただいたり、展示をご覧になった方から「知らないことばかりだった」「写真だけでなく関連する資料があつて分かりやすかった」などの感想をいただいたりした。</p> <p>▼一度参加した方が、「楽しかったから」「あの現場の空気感をもう一度味わいたいから」と、別会場にリピーターとして再び参加して下さったこともうれしかった。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>▼会場を探す段階になり、「共催不可」という“ふむふむの規定”と、ロビーを使用するには「共催が条件」という“公民館のルール”がバッティングし、写真展会場として想定していた公民館ロビーを使えないことが発覚。すでに開催が決定していた館を変更することになり、日程調整が難航した。(【3】楽々園公民館については、ローカルルール?でロビー使用に共催が条件という決まりは特にないようで、使用できた)</p> <p>▼上記による日程調整に時間を要した上、今年度から各館「公民館まつり」が本格的に復活し、秋は開催が難しく、年度末にぎっちリスケジュールを詰め込むことになってしまった。</p> <p>▼日程はきつかったが、計画していた【2回×3会場】開催を、ぎりぎり年度内に終えることができた。</p> <p>▼【3】楽々園会場では、初めて小さなお子さん連れでの申込みがあり、子どもたちにも参加を実感してもらえるよう、安全にできる作業など工夫して、とても楽しんでもらえた。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>▼どの公民館でも、企画内容をお伝えした担当者さんから「共催でやりたかった」と残念がる言葉が聞かれ、「来年度以降、またぜひ開催してほしい」と言っていた。</p> <p>▼会場・展示環境が毎回違い、広さや展示に使うボードも当然違っていて、釘が刺せない、真っ白で印がなく水平をとるのが難しいなど、その都度、課題にぶつかったが、みんなで知恵を出し合い、それぞれの会場に合わせてレイアウトや展示方法に工夫をこらした。</p> <p>▼まちづくり団体や歴史研究会のようなグループの利用がほとんどない公民館もあり、特に竹屋公民館では立地的に長く住まれている方とのつながりが少なく、当時を知る方の参加を募るのが難しかった。</p> <p>▼高齢の方以上に、若い世代の参加が思うように募れなかった。チラシを作成し、会場隣の大学・高校などにも掲示や配布をお願いしてまわったが、そこからの応募はなく、伝手を頼って声がけなどした。そんな中、3会場目で小さいお子さん二人連れの若いお母さんから、公民館でチラシを見て一般申込みをいただけたのはうれしかった。</p> <p>▼若い世代への周知活動として、学校などで巡回展を開催できれば、学生さんや先生方に興味を持っていただくこともできるかもしれないので、今回の開催地域を中心に今後も模索していきたい。</p> <p>▼今回は「広島市まちづくり活動支援基金」を元に開催させていただいたため、広島市内に会場を限定したが、明田作品には県内各所、例えば県北の花田植えなど祭りの様子や神社等の文化財、県東部では尾道の路地、因島の除虫菊畑、西は宮島の管弦祭や山口県祝島の神舞など、まだまだたくさん地域の方に見ていただきたい作品があるので、今回の開催経験を足掛かりに、他の地域でも企画していきたい。</p> <p>▼写真展の開催には(どの程度のクオリティを求めるかにもよるが)、画質調整やプリントに費用がかかる。今後、他地域で開催する際、今回の実績を予算の参考にしていきたい。</p>